

## 「足利市経済活性化諮問会議」中間答申、最終答申とは

— 読売新聞栃木版「時評」で考える —

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 今朝は、10月16日・火曜日の読売新聞栃木版に掲載された「時評」という私が書いた文章の内容について、少し紹介させていただきます。テーマは「地域の強み、足利の挑戦」で、経済活性化についてのお話です。放送をお聴きの皆様の中には、足利市以外の方もたくさん聴いていらっしゃると思いますが、その皆様にも関係することがあると思いますので、どうかよろしく願い致します。
3. 雇用や税収に直結するのが経済の活性化、地域の経済活性化です。このことをどうしたらよいかについて、足利市では昨年2011年の9月から本年2012年の8月末までの1年間、足利市長の大豆生田実さん直轄の「足利市経済活性化諮問会議」の定例会議が毎月1回3時間開かれていました。この会議の委員さんは全部で25名、私が会長に任命されまして、本会議を含め40回も会合を行いました。視察に行ったり、衆議院議員の茂木敏充先生などからヒアリングをしたり、意見交換をしたりなど皆さんが極めて熱心に参加をしてくださりました。もちろん会長である私もすべての会合に参加させていただきました。そして、本年2012年4月の初旬に630項目の足利市経済活性化諮問会議中間答申を出させていただきました。それらを絞り込んで8月末に230項目の足利市経済活性化諮問会議最終答申を取りまとめて、大豆生田実市長に提出をさせていただきました。2つの答申は、ホームページに公表されています。
4. 今はデフレや円高など本当に大変なことがたくさんありますが、大変なことをいくら嘆いても経済はよくなりません。そこで、足利市の強み、地域の強みは何かを自分たちで見つけ出して、その強みをテコにして地域の活性化に役立てたいと考えて議論を積み重ねました。
5. 足利市についてよく考えてみますと、足利市には日本最古の学校である足利学校があります。ここでは、現代の日本に最も欠けている規範教育の原点ともいえる「論語」が盛んに教えられていました。そして、今でも盛んに教えられています。足利市活性化の原点としてその「論語」を大事にしようということで、論語の素読、論語の大切なところを声に出して読む「素読」を足利市の教育の中心に置いて、学校教育や社会教育、家庭教育で活用したらどうかということが議論されました。その議論を踏まえて、今とても盛んに学校や家庭、地域でも論語の素読が行われています。
6. また、製造業、ものづくりがとても盛んな足利市では、改善活動も盛んです。その一番初歩的なこと、よく考えてみれば最も本質的なこと、基本中の基本が「5S」です。足利商工会議所では足

利 5S 学校を開設し、整理・清掃・整頓・清潔・躰という順序で足利流の 5S の勉強会を開いています。足利市では製造業だけでなく、小売業や福祉施設、学校、市役所などでも 5S が非常に熱心に行われています。毎月 5 のつく日は 5S の日というように、みんなが励まし合って 5S 活動を行っています。この足利流の 5S の特色は、上から強制されないでみんな楽しく自主的にやるということです。この 5S のネットワークは市内の 200 余りの事業所に広がりを見せて、クラスター、産業集積にまでなってきたつあります。非常に参考になるということで、日本だけではなく、毎週のように中国や色々な国からの視察団が足利の 5S を見学に来るようになりました。せっかく足利の強みになった足利流 5S です、経済産業省の幹部の方々からアドバイスをいただき、日本だけでなく世界でもこの足利流 5S を役立ててもらおうと考えました。そこで本年 2012 年 11 月 5 日から 3 日間、「第 1 回世界 5S サミット」というものを足利市で開催することになりました。5S で世界のサミットを行うのは足利市が世界で初めてだということです。

7. 今後は、論語の素読と整理・清掃・整頓・清潔・躰という 5S 活動の 2 つを活用し、足利市では地域として戦略的に自律的な人材づくりを行って、企業や各団体を活性化させて永続させたいと考えます。自律的な人材の自律とは自分で立つという字ではなく、自分自身を律して、高い志のもとに自分の意志でやっていこうということです。

8. また、これから先は超高齢化社会を迎えますので、予防医学や健康増進、生涯教育に重点を置いた「いつまでも若々しく生きる街づくり」をすることが、おそらく市民の願いだと思います。放送をお聴きの皆様も、いつまでも若々しく生きたいとお考えだと思います。そのためには、高齢者の定義を 65 歳からとするのではなく、人口の 15%~20%としていただき、せめて平均寿命までは仕事や社会参加ができるようなコンパクトシティ、つまり自分の身近なところすべてがまかなえるようなコンパクトな街づくりを目指したいと考えます。

9. 女性や若者、高齢者の方が仕事をしたり、起業、自分で仕事を起こしたりすることを全面的に支援することは、雇用と税収に直結します。大豆生田実市長は、この「足利市経済活性化諮問会議」での議論を参考にさせていただいて、創業時の法人市民税の減額や免除に踏み切りました。

10. また、働く親の本音は、子どもが通う学校の空いている教室で、全額無料の学童保育を行ってほしいということだと思います。ですから、子どもが学校で 1 日中安心して過ごせること、このことを少子化対策としてやっていただきたいと提言をしました。

11. 今後は、230 の答申を市や市民の皆様とともに実行するために、「足利経済フォーラム」というものをつくって活動を継続したいと考えます。そして、言い出しっぺとしての責任を少しでも果たしたいと思っています。足利市のホームページに「足利市経済活性化諮問会議」というものが出ていますので、中間答申、最終答申の全文をお読みいただければ有難いと思います。本当によくここまで議論したなという中身になっていると思いますので、ぜひ御覧ください。

— 2013 年 4 月 8 日 加筆訂正 林 明夫 —